



立川市民オペラ公演 2016 歌劇「ラ・ボエーム」

2016年3月12日(土)、13日(日) たましんRISURUホール(立川市市民会館)大ホール

例年以上に暑さの厳しい中、サポーターの皆様はいかがお過ごしでしょうか。7月30日(木)にはソリストオーディションを行いました。応募者は114名にのぼりかなりの長丁場となりましたが、審査員の先生方をはじめお手伝いいただいたスタッフの皆様のおかげで無事終了いたしました。皆様のご協力誠にありがとうございました。

『ラ・ボエーム』オーディション合格者発表!

7/30(木)のオーディションにより8名のソリストが選出されました。その他のキャストも今後決定いたします。お楽しみに!

ミミ	宮澤 尚子	ムゼッタ	別府 美沙子
	佐田山 千恵		保科 瑠衣
ロドルフォ	大澤 一彰	ショナール	井出 壮志朗
マルチェロ	岡 昭宏	コルリーネ	狩野 賢一

立川管弦楽団より

立川管弦楽団は来る11月15日の定期演奏会に向けて練習がスタートしています。

また地域文化の振興に関わる市民団体として、今回のオペラ公演についての検討も併せて進められており、団員の拡充や演奏の質の向上に日々励んでいます。



オペラ合唱団より

合唱団の「ボエーム」稽古の進み具合は順調です。合唱団は主に第2幕のクリスマス・イヴを祝うにぎやかな場面を歌います。お母さん達の合唱が、言うことを聞かない子供に向かってヒステリックに歌います。初めはイタリア語を言うのに必死でしたが、最近はテンポも速く歌えて子供を叱りつけるお母さんらしくなってきました。「家に帰って寝なさい!」と相当怒っていますよ。

2017年公演予定の「カルメン」の練習も始めました。立川市民オペラ合唱団の母体となったオペラ学校では、たっぷり3年間も稽古して上演しました。フランス語が難しいこともあり、今から練習しています。8月には演出家の澤田先生による演技指導があります。「ボエーム」ではどんな演出をしていただけるのか、楽しみです。

立川オペラ愛好会より

10月17・18日に開催される国立音楽大学大学院オペラ公演モーツァルト作曲「コジ・ファン・トゥッテ」に先立ち、レクチャー会を9月5日(土)午後7時からアイムホールで開催します。当公演演出担当の中村敬一先生と大学院生の歌手が出演します。中村先生の演出家ならではの興味深いお話と、学生さんの若さ溢れるオペラアリアの歌唱、先生と学生さんのトーク等々楽しいレクチャー会です。定員180人で会費は無料です。会員以外のお客様も歓迎です。お誘い合わせてどうぞ御来場ください。



連載「知っている面白くなる」

「ラ・ボエーム」の題名(意味は前回掲載の通り)が表すように、原作は「ボヘミアンたちの生活情景」という23章の短編集です。オペラのように一連のストーリーがあるわけではありません。そのため一話のオペラとして台本化は困難で、2人の作家によるものとなりました。さらに台本作家に厳しいプッチーニ、度重なる改訂の要求に作家と争いになってしまいます。楽譜出版社リコルディの社長の仲裁で、プッチーニは台本の完成を待たずに作曲を進めていたとのこと。仲裁がなければ作品は頓挫、または彼が妥協していたら今とは違う形の作品になっていたのでしょうか。いくつかのアリアは作曲されなかったかもしれませんね。リコルディに感謝!!